



天使が消えた空

鳴海杏士

あの空の向こうで 天使が横切った
風で輪をえがいて 無邪気に笑ってた

希望の七色 ちらつかせてはしゃいで
明日の行方を 見誤った僕にも

何かをなくしながら 何かを守りながら
くちびるを噛んで 生きる僕に天使は
何かにすがりながら 何かにおびえた目に
真っ白な羽根を 雲の下へ舞わせて

あれから時は経ち 分別もおぼえて
あの空の向こうの 天使は消えていた

通りを行く影 ぶらつかせる流れは
天使の姿を 見失った人々

何かをなくしながら 何かをこぼしながら
呻くこの声が もしも届いてるなら
何かにすがりながら 何かをわすれた目に
もう一度白い羽根をここに降らせて

つばさは折れる

酔生夢三死

君を観てると 俺の心の
鏡なんだと よくわかる
調子いい時 天翔る
調子悪けりゃ 落っこちる

そして 下った 審判は
ずばり 墮落の ホイッスル

だってつばさが 折れてしまって
治療するのが 大変だ
まさかプロペラ 糊でくっつけ
飛ばすわけにも いかないぜ

そして 押された 烙印は
ずばり 挫折の エンブレム

いいよ いいとも 泣くだけさ
ひとつヤケ酒 ひっかけて
傷にしみるぜ 俺の心と
君の体に ヤケ酒が

つまり 押された 烙印は
ずばり 挫折の エンブレム

俺のことなら 気に病まず
早く空へと 昇ってけ
元は昔は天国で
楽をしていた 君だから

俺に 押された烙印は
ずばり 挫折の エンブレム